

中央アメリカ	南アメリカ	西印度諸島	ボルトリコ
ホンドレヌ	ウルグアイ	キーバ	ボルトリコ
七 日	二十 日	九 日	二十三日
ゴイテマラ	ブラジル	キーバ	ボルトリコ
十一 日	二十五 日	十五 日	二十三日
コスタリカ	コロンビア	ジャマイカ	ボルトリコ
十二 日	二十六 日	二十九 日	二十三日
ラジニカルン(Tegucigalpa)及ビニローゼ(Belize)地方ニ流行ス。	十月初旬モンテビデオ(Montevideo)ニ爆發性流行ヲ來ス。	既ニキーバ全島ニ蔓延スルヲ報ズ。	全島ニ蔓延シ同島ノ各港ニ於テ海港檢疫ヲ施行ス。
ゴイテマラ市(Guatemala)ニ流行ス。	バリ(Para)及ビメソアポ(Sao Paulo)ニ於テ流行激甚ヲ報ズ。	キーバ島ノ各港ニ海港檢疫ヲ開始ス。	
リモン(Limon)ニ猖獗ス。	ラニエラ(Da Guaira)マラカイボ(Maracaibo)及ビンヘルトカベルロ(Puerto Cabello)ニ猖獗ス。	ボルトアントニオニ流行ス(Port Antonio)キンメンション(Kingsion)ニ流行ス。	
	ボロタ(Bogota)ランキラ(Barranquillo)カータゲナ(Cartagena)及ビンペー(Peru)ニ流行ス。		

大西洋諸島
アゾレス島
廿二 日
カナリイ島
全島ニ流行スルヲ報ズ。
十月十八日頃ヨリ流行ノ兆ヲ現ハシ二十三日ニハ大カナリイ島ラスバルマス(Las Palmas)テネリフン(Teneriffe)ニ流行ヲ見タリ。

大太平洋諸島
ハワイ
十 日
ニージーランド
十七 日
マダカスカル
十九 日
東支那
十月 日
十月初旬湖南省北沙府ニ流行ス。
十月初旬各地方ニ流行ス(後章参照)

歐洲
英蘭土
十一月ニ於ケル流行
ノッチンガム(Nottingham)ニ流行猖獗ヲ報ズ。
アテンニ發生ス。

印度	二日	印度全洲ニ渡リテ流行激甚ヲ極ム。
支那	二日	廣東ニ流行ノ兆ヲ現ハス。
アメリカ大陸		到ル處ノ山間村落ニモ流行ヲ見ザルノ地ナキニ至ル。
合衆國		パラマリボ (Paramaribo) ニ發生ス。
グイアナ		ジャマイカ全島ニ蔓延ス。
ジャマイカ	二日	ジャマイカ全島ニ蔓延ス。
サモア		アピア (Apia) ニ流行ス。

十二月ノ流行

南洋諸島		
トンガ島	三日	流行激甚ナリ。
ンサイテイ諸島	廿八日	流行猖獗ヲ極ム。
バラグイヤ	一日	バラグイヤ及ピアサンシオン (Asuncion) ニ流行ス。
西印度諸島		
トミニカ共和國	十九日	ラプラタ (La Plata) ヘルトプラタ (Puerto Plata) サントドミンゴ (Santo Domingo) ニ流行猖獗ナリ。

以上ハ一九一八年五月ヨリ同年十二月ニ至ル流行状況ノ一般ナリ尙參考トシテ本邦ノ海外領

事ヨリ内務省其ノ他ノ關係當局ヘ宛テタル二三ノ報告ヲ轉載スベシ。

諸外國領事ヨリ各省宛ノ報告

十月九日發外務省着電

熱病(流行性感冒)ノ流行ハ其後當地ニ於テ終熄ヲ告ゲタルニ先月中旬ヨリ再發シ前回ニ比シ經過甚ダ不良殊ニ本月初以來一層猛烈トナリ目下毎日七百以上ノ死亡者アリ全市ヲ擧ゲテ其ノ撲滅ヲ講シ居レルモ未ダ減退ノ模様ナク漸次各地ニ蔓延シツ、アリ(在孟買桑島領事)

十月十七日海軍省着電

悪性感冒ノ暴威今ヤ其ノ極ニ達セル南阿聯邦ハ死亡日ニ數千ヲ算シ各都市ヲ荒廢シ漸次地方村落ニ向ヒ蔓延シツ、アリト。一月以降二週間ニシテケープタウンコロニー半島ハ五千ノ死亡者ヲ出シ未ダ衰頹ノ模様ナク歐人ノ死亡率モ増加シツ、アリ、當地ハ二三千ノ小都邑ナルモ死亡者百ヲ越エ人心競々タリ傳播ノ迅速、病毒ノ猛烈、他ニ比較ナク死者ノ多クハ肺炎若クハ心臟麻痺ニ斃ル、患者率二分ノ一、死亡率二十分ノ一ヲ超過スルモノ、如シ。附近ノ本邦汽船ニハ絶ヘズ警告シ注意ヲ促シアルモ若シ不幸ニシテ日本ニ侵入スルガ如キコトアレバ、其ノ慘禍恐慌測リ知ルベカラザルヲ以テ豫メ豫防法ヲ講シ未然ニ防ゴト最緊要ナリト思考ス。(南阿〇〇司令官)

十月十九日外務省着電

悪性感冒目下安南馬來半島ニ亘リ、猖獗ヲ極メ、肺炎若クハ心臟麻痺ヲ續發シテ死亡スルモノ頗ル多ク、一般ニ恐慌ヲ來シ居レリ當地寄港ノ本邦汽船ニハ夫々警告中ナリ。

(在新加坡山崎領事)

十月十九日外務省着電

加奈陀東部地方ニ流行シ居タル「スバニツシエインフルエンザ」約十日前ヨリ當地地方ニモ發生シ爾來患者續發猖獗ヲ極ム。ピクトリアハ十月十四日ヨリ晚香坡ハ同十八日ヨリ學校集會等ヲ閉鎖セリ。在留民間患者頗ル多ク恐慌ヲ來セリ(在晚香坡浮田領事)

十月二十日外務省着電

米國東部地方ニ於テ過般來猖獗ヲ極メタル「スバニツシエインフルエンザ」ハ一、二週間來桑港方面ヘ傳播シ來リ桑港市ニ於テモ既ニ患者約三千ノ發生ヲ見ルニ至レリ、該病ハ極メテ悪性ノ流行性感胃ニシテ發病後幾許モナク急性肺炎ヲ惹起シ易ク既ニ在留本邦人ノ内ニモ死亡者若干名ヲ見ルニ至レリ(在桑港太田總領事)

十月十九日發衛生局着電

三井貨物船浦賀丸ハ十八日蘭貢ヨリ當地ニ入港シタルガ航海中船員三十九名ノ内二十八名ハ病名不詳ノ熱病ニ罹リ船長外一名死亡シタリ該船當地入港後開業醫ハ「インフルエンザ」下診斷シタリ。

該船ハ昨日出帆基隆ヲ經テ橫濱ニ向フ尙船長ノ死體ハ當地剖檢所ニテ検査中在香港鈴木總領事)

十月二十日海軍省着電

十六日以來病勢減退シ今十九日新患者死亡共ニ著シク減少シ終息期遠カラズ十日デーバン發日本ニ向ヒタル加賀丸ニ患者發生セリ(サイモンスタウン局發)

十月二十二日外務省着電

當地感冒引續キ猖獗毎日新患者二百名内外發生以來二十日迄ノ患者數陸軍ヲ除ク一、二〇〇名、死亡三三名此ノ外届出洩レノモノ(脱邦人專屬隔離所ヲ設ケ續々患者ヲ收容防遏ニ努力シツツアリ(在晚香坡浮田領事)

### 第六章 本邦ニ於ケル今回ノ流行

翻テ我が國ノ流行狀態ヲ見ルニ、海外諸邦ニ於ケル蔓延ノ概要上述セルガ如キ狀況ニ在ルヲ以テ、然カモ本邦ニ接近スル南支那、北米合衆國、加奈陀等ノ諸邦ノ猖獗ナルニ至リテ、之等各地ト通商ノ繁劇ニシテ船舶ノ往來極メテ頻繁ナル幾多ノ港灣ヲ有スル本邦ニ於テハ、將ニ「インフルエンザ」ノ重圍ノ内ニ陥リタルモノニシテ、又過去ノ疫學史ニ徴スルモ到底之ガ侵襲ヲ免ル、能ハザル所ナリキ。

内務省衛生局ノ各地方廳ニ命ジタル報告ニヨリ調査セル成績ニ據レバ、福島縣及奈良縣郡部、山梨縣甲府市ノ如キハ既ニ八月中ニ於テ流行ノ初發ヲ見、埼玉、富山ノ兩縣ハ九月上旬ニ發生シ、静岡縣ノ郡部地方ハ九月中旬ニ於テ、茨城、福井、島根、大分、熊本ノ各縣ハ何レモ九月下旬ニ同病ノ流行スルヲ報ジ、又當時ノ日刊新聞紙ノ記載ヲ參照スルニ、愛媛縣大洲中學校ニ於テ十月ノ初メ

本邦ニ於ケル今回ノ流行

ヨリ寄宿生間ニ該症ノ頻發シ十月十一日ニ既ニ八十名ヲ算スト記セリ。是等ヲ參照スルニ本邦ニ於ケル初發ハ八月頃ニアルモノ、如ク、稍々流行性ヲ帯ビテ蔓延ノ兆ヲ示シ世ノ注意ヲ惹クニ至リシハ各地方トモ十月初旬ト見ルヲ妥當トスベシ。而シテ其ノ傳播ノ有様ニ至ツテハ何等ノ秩序アル系統ヲ示サズシテ發生セルモノ、如ク其ノ泉源全ク不明ナルガ如シ。

外國トノ交通關係ノ密接ナル長崎、門司、神戸等ノ諸港ヲ包擁スル各縣ノ初發ニ關シテハ特ニ調査ヲ缺クト雖モ、全國ニ於ケル流行ノ初期ト大差ナキガ如ク、只九月十九日頃厦門方面ヲ經由シ十月二日門司ヲ通過シテ十月三日神戸港ニ入港セル汽船「アラビヤ」丸ノ航海中乗組員六十名悉クインフルエンザニ罹リタルアリテ該船客支那人數名ノ神戸上陸後直チニ發病シテ海員病院ニ入院セル事實アリテ以後兵庫縣ニ流行ヲ見タル、又後述スル我ガ神奈川縣ノ流行ノ如キハ其ノ泉源ノ船舶ニアルヲ思ハシムルノ點ナキニアラザルモ、特ニ之ヲ流行ノ系統ト見做スニハ其ノ事實ノ薄弱ナルモノ多クアリ。何トナレバ大正七年春期ニ於テ全國ニ散在性、地方性ニ集團生活者ノ間ニ流行性感胃ノ相當ニ流行ヲ來シタルヲ報セラレタレバナリ。然レドモ遺憾ナガラ之レニ關スル確實ナル文献ヲ有セザレバ當時ノ醫事雜誌及ビ日刊紙ノ記載其他ヲ參照シテ其ノ一般ヲ知ラントス。

大正七年五月初旬東京市内ニ散在性ニ熱性感胃ノ流行ヲ報ジ、殊ニ角力協會ノ如キハ力士ノ感冒熱發ノタメニ休場者續出ニ苦シメラレタル所ニシテ俗ニ「角力風」ト稱シタルガ如シ。

第十師團軍醫部ノ報告ニ據レバ、大正七年六月ヨリ流行性感胃猖獗ヲ極メ第十師團所屬各部隊ニ於テ、六月中五百八十二名、七月ニ入りテ七百五十二名ノ患者ヲ出セリト謂ヘリ。(醫海時報一

二七五

鐘ヶ淵紡績會社京都工場ニ於テ、大正七年六月二日ヨリ七月四日ニ至リ流行性感胃ノ大流行アリテ、入院加療セルモノ一〇九八名ヲ算シ寄宿現在員ノ約四四五%強ノ罹患率ヲ示セリト(醫海時報一二七五)

富士紡績會社静岡縣小山工場ニ於テ、大正七年六月中旬ヨリ七月初メニ及ンデ流行性感胃患者發生シ、其ノ病勢猛烈ニシテ收容患者二千二百九十餘人ヲ算シタリト謂ヘリ(臨床醫學)又山口縣防府町縣立周陽中學校ニテハ、五月二十一日ヨリ二十四日ニ亘リ、同校寄宿舍内ニ於テ突然十六名ノ熱病患者ヲ出シタルヨリ、直チニ神徳病院ニ隔離シ舍内大消毒ヲナシタルガ、患者ハ發熱四十度ニ達シ數日ニシテ恢復セリトノ記事アリ。(五月二十九日、三田尻來電大毎)又伏見工兵第十六大隊第三中隊ニテ、去ル五月十九日三名ノ熱病患者發生、二十日更ニ一名ノ發生ヲ見タレバ兵員ノ外出ヲ禁ジ全兵員ノ健康診斷ヲ行ヒシ結果、引續キ新患者六名、注意患者九十四名ニ達シ尙續出ノ模様アリ。衛戍病院ハ流行性感胃ナリト稱ス。(五月二十六日、大毎)

七月十一日弘前發電、歩兵第五十二聯隊ノ營内ニ二三日前ヨリ流行性感胃侵入シ目下患者八百餘名ニ達シ極力加療中ナリト。

福井縣鯖江歩兵第三十六聯隊ニテハ、勤務演習ノタメ入營中ナル豫備兵、中十餘名ノ流行性感胃ニ罹リ警戒中ノ處現役兵ニモ感染シ七月二十日ヨリ廿一日ニ亘リ、第一中隊ヨリ第十二中隊ヲ通ジテ四百八十餘名ノ多數患者發生シ、就中第七、八兩中隊ノ患者尤モ多數ナルタメ廿一日ヨリ兵士ノ外出ヲ禁ゼリ。(福井來電)七月二十二日大毎

臨床醫報第七卷第三號ニ於テ、島誠郁氏ハ大正七年七月金澤歩兵第七聯隊ニ於テ同病ヲ多數ニ出シタルヲ報告セルアリ、其他本縣横須賀軍港並ニ程土ヶ谷紡績工場等ニ同様患者ノ多數發生スル等ニ鑑ル時ハ、既ニ大正七年五月以降全國ヲ通ジテ地方的ニ隨處ニ流行アリタルモノニシテ然カモ秋季ノ世界的大流行ニ於テ、病原トシテ學界ノ視瞻ヲ集中セシメタル「バイフェル菌」ノ春期流行患者ヨリ、大阪血清藥院ニ於テハ三三例中四例(一二%)、常岡博士ニヨレバ三四例中十例(二九%)ノ比ニ檢出セラレタルモノアルニ於テハ、秋季ニ於ケル「バンデミー」ノ泉源ノ何レニアリヤ大ニ疑問ナキ能ハザル所ナリ。

由是觀之、本邦ニ於ケル五六七月ノ流行ト十月以後ノ流行トノ間ニ何等カノ原因の關係ノ存在スルヤ。常岡博士、稻田博士、鶴見、前川、吉村氏等ノ思考スル如ク、春期ノ小流行ヲ以テ世界的流行ノ先驅的流行ト見做スベキカ、或ハ佐多博士ノ想像スルガ如ク、之ヲ全ク別種ノ流行トナスカハ吾人之ヲ知ラザルモ、本邦ニ於ケル這般ノ流行ハ、往時ノ専門的ナラザル風邪流行ノ記録ト異リ、九州或ハ關西地方ヨリ原發シテ北上シ東北ニ進行セル系統的傳播ノ狀態ヲ示サハルモノトス。コレ交通關係ノ複雜セル現時ニ在リテハ、海外諸邦ニ於ケル流行ノ猖獗ナルヤ、先ヅ船舶ヨリ陸地ヘ病毒ヲ運ビ、又陸上ヨリ船舶ヘ齎シ、原發地ハ流行地トナリ、流行地ハ更ニ原發地ト化シテ海外ニ於ケル流行ト殆ド相呼應シテ蔓延セル系統ヲ辿レルモノモアルベク、又春期ノ流行ノ復活シテ蔓延ヲ來シタルモノモアルベク、斯クシテ暫時ノ間ニ全國ニ渡リテ爆發的流行ヲ惹起シタルモノナリ。コレ交通關係ノ錯綜セル結果ト見ルベシ。而シテ其ノ初發ハ上述セル如ク明白ナラザルモ、恐ラクハ八、九月ノ頃ナルベシ。而シテ十月中旬ヨリ十二月中旬ニ亘リテ猛烈ヲ極メタル

後、一時病勢稍々衰ヘ翌年一月下旬ヨリ三月ニ亘リテ再流行ヲ來シ日本全國ヲ舉ゲテ「インフルエンザ」ノ風靡ニ委シ去ルノ止ムナキニ至リタルモノニシテ、其ノ傳播ノ急激ナル兵營、工場、官衙ノ如キハ殆ド大半ノ人員ヲ胃シ、學校ノ休校ヲ報ズルモノ枚舉ニ遑ナク、工場ハ爲メニ事業ノ進行ニ甚大ナル礙障ヲ來シ、軍隊ハ軍事行動ニ大ナル影響ヲ及ボシ、其ノ他社會百般ノ事々物々ニ至ルマデ、之ガ慘害ノ及ブ所測リ知ルベカラズシテ筆紙ノヨク盡ス所ニ非ザルナリ。一家ヲ舉ゲテ病魔ノ奔弄ニ運命ヲ啣チタルモノハ更ナリ、愛兒ノ誕生ヲ樂ム遑モナク空シク恨ミノ死ヲナセルウラ若キ妻ノアルアリ、有爲ノ學才ヲ抱キテ徒ラニ幽明境ヲ異ニセルモノ、其ノ他社會ノ裏面ニ幾多ノ浪漫詩ト挿話トヲ殘シタルモノ、蓋シ幾何ナルヤヲ知ラザルベシ。

而シテ本邦全土ヲ通ジテ罹患セルモノ別表ノ如ク、大正七年八月ヨリ大正八年三月三十一日マデニ二千九十四萬七千七百三十三人(罹病率三六、六%)死亡者二十四萬六千三百六十八名、患者ニ對スル死亡率一、一七%ヲ示セリ。而シテ大正八年末ヨリ九年春期ニ至ル(後流行)ニ於テハ、罹患者二百四十一萬二百三十七名、死亡者十二萬七千六百三十九名(自八年六月廿日)ニシテ、前回ニ比シ罹病者ノ數約八分ノ一ニ減少セルニ反シ、死亡率ハ著シク増加シテ四、一二%ヲ示セリ。彼ノ安政元年ニ於ケル「コレラ」大流行ノ當時、コレガ爲メニ死亡スルモノ數十萬ト號スルニ優ルモノニシテ本邦疫學史上未曾有ノ慘事ヲ出現セルモノト謂フベシ。諸種學術ノ白眉トシテ其ノ進歩ヲ誇ル現代ノ醫學ヲ聯想スル時、誰ガ此ノ尤大ナル計數ヲ聞キ慄然トシテ病魔ノ猛威ニ驚怖シ、造物主ノ靈妙ナル惡戯ヲ呪ハザルモノアラシヤ。

今、本邦各府縣ニ於ケル流行ノ初期ヨリ二回ニ亘ル罹患患者及死亡者數ヲ掲グレバ左ノ如シ(内

本邦ニ於ケル今回ノ流行

務省衛生局ノ調査ニ依ル

大正七八年ニ於ケル流行性感胃患死者表

道府縣	流行ノ初期	人口	患者	人口百ニ對スル患者率	死亡	患者百ニ對スル死亡率
北海道	同十月下旬	二、〇八八、四五五	四八五、五七四	二三、二四	八四一一	一、七三
東 京	同十月下旬	三、六三九、六六三	四〇四、〇六〇	三八、五七	一三、四〇三	〇、九五
東 都 京	同十月十七日	一、三六七、三〇六	三六七、八五八	二六、九〇	六、四五七	一、七五
大 阪	同十月十一日	二、七五四、〇九〇	四七三、一三一	一七、一七	一一、二八〇	二、三八
神 奈 川	同十月十一日	一、三二四、六〇九	二八八、二三七	二一、七六	五、一〇一	一、七六
兵 庫	同十月十一日	二、二九九、七二七	八二七、一六六	三六、〇九	一三、九二七	一、六七
長 崎	同十月十日	一、二一〇、七八五	二七八、四九〇	二三、〇〇	三、一七	一、一一
新 潟	同十月十日	一、九四三、八二三	四一九、七一〇	二一、五八	六、三〇二	一、五〇
埼 玉	同十月七日	一、三九四、五八二	七九九、〇九〇	五七、二九	九、五五〇	一、一九
群 馬	同十月七日	一、〇三六、九三四	三二一、〇九九	三〇、九六	三、三三五	一、〇三
千 葉	同十月七日	一、四六五、六五四	三〇三、五六六	二〇、七一	三、三〇七	一、〇八
茨 城	同十月七日	一、三二五、八六八	四九六、三九四	三七、四三	五、七二七	一、二五
栃 木	同十月七日	一、一〇三、九五〇	三三〇、三二八	二九、九二	四、〇六〇	一、二三
栃 原	同十月七日	五八一、八四一	二七〇、一二五	四六、四二	三、一二五	一、一五
三 重	同十月七日	一、一一九、七一一	三〇一、五〇〇	二六、九二	六、二七六	二、〇八

道府縣	流行ノ初期	人口	患者	人口百ニ對スル患者率	死亡	患者百ニ對スル死亡率
愛 知	同十月十八日	二、一二〇、四七七	一、〇二一、五二九	四八、一七	六、七〇七	〇、六五
靜 岡	同十月十日	一、四九六、一六一	七四五、〇六三	四九、七九	五、二五一	〇、七〇
山 梨	同十月十日	六〇七、九四五	二四五、三七二	四〇、三六	二、六七二	一、〇八
滋 賀	同十月十日	七二七、二一七	一八〇、七九六	二四、八一	三、一七九	一、七五
岐 阜	同十月十日	一、一二七、九三八	四〇三、三五七	三五、七六	六、三〇七	一、五六
長 野	同十月十日	一、五三九、三三八	六三三、七一五	四一、一六	六、六四九	一、〇四
宮 城	同十月十日	九〇六、七九九	三九二、四六五	四二、一七	三、〇五〇	〇、七七
福 島	同十月十日	一、二六九、五〇八	五〇七、〇六一	三九、九四	五、一〇五	一、〇〇
岩 手	同十月十日	八七七、二一八	三四二、七九〇	三九、〇七	三、八七八	一、一三
青 森	同十月十日	七九六、七六〇	三七六、八一五	四八、〇四	四、四八八	一、一九
山 形	同十月十日	九三六、四八二	四四八、三六九	四七、八七	三、一七九	〇、七〇
秋 田	同十月十日	九七六、〇三六	二四四、九一〇	二五、〇九	三、五八〇	一、四六
福 井	同十月十日	六一六、六五二	二二三、〇〇三	三七、七八	三、七二七	一、五九
石 川	同十月十日	八二二、〇四一	一四一、五四四	一七、二一	三、八一五	二、六九
富 山	同十月十日	八一五、八三八	三七二、三六九	四五、六四	三、六七四	〇、九八
島 根	同十月十日	四七六、九〇三	一九〇、八三九	四〇、〇一	三、〇六三	一、六〇
島 根	同十月十日	七六〇、六六八	四一四、六七八	五四、五一	五、〇六九	一、二三
島 根	同十月十日	一、二八七、二〇〇	五二〇、二七二	四〇、四一	四、五二八	〇、八七
廣 島	同十月十日	一、五八三、六一四	六二七、八五六	三九、六四	八、六五一	一、三七

本邦ニ於ケル今回ノ流行

大正八、九年ニ於ケル後流行

大正八年十月月中旬ヨリ  
大正九年六月末マデ 流行性感胃患死者表

道府縣別	流行ノ初期	人口千ニ對スル死亡率	患者累計	死者累計	患者百ニ對スル死亡率
山口	十月二十日	一、一〇二、七七二	四三一、五二三	三九、三〇〇	四、五二四
和歌山	十月八日	七三七、七九三	三二四、二七九	四三、九一	三、二二七
徳島	同上	七四七、〇〇九	四〇九、〇九三	五四、七六	四、四三二
香川	同上	七五四、二六〇	三九六、九七七	五二、六三	五、七八八
愛媛	同上	一、二二六、五四六	五七八、九三四	五一、三九	五、九七五
高知	同上	七〇三、八八九	一四五、八一八	二〇、七一	九一七
福岡	十月二十五日	二、〇九三、四二七	六八三、二二六	三三、六三	七、二六二
大分	十月二十日	八九三、一四五	二九九、二五六	三三、五〇	五、四四五
佐賀	同上	七〇五、六五五	四〇二、二三三	五七、〇二	三、六七四
熊本	同上	一、二六四、一八八	六七四、〇一九	五三、三一	五、一三一
宮崎	同上	六四二、四三九	三五七、三八七	五五、六二	三、〇七六
鹿児島	同上	一、四七〇、二二二	七三一、四三六	四九、六八	五、五五四
鹿島	同上	五五七、一六二	一〇四、四三三	一八、七四	一、四三三
沖繩	同上	五七、一九〇、三二〇	二〇、九四七、七三三	三六、四五	二四六、三六八
合計					

道府縣別	流行ノ初期	人口千ニ對スル死亡率	患者累計	死者累計	患者百ニ對スル死亡率
北海道	十一月下旬	一、六九	六七、七二一	三、六八四	五、四三
東北	同上	三、四〇	四三三、〇九八	一一、五五九	二、八〇

道府縣別	流行ノ初期	人口千ニ對スル死亡率	患者累計	死者累計	患者百ニ對スル死亡率
京都	十一月下旬	三、七二	四〇、六九八	四、一五〇	一〇、一九
大阪	同上	一、八四	五六、九九二	二、三九八	二、六三
兵庫	同上	三、七〇	一一九、七九三	八、五七〇	四、二〇
奈良	同上	二、一九	六九、四九〇	二、六七二	三、八四
和歌山	同上	三、〇一	五六、六五六	五、七五九	一〇、一六
徳島	同上	二、一七	四二、五四三	三、〇二五	四、一一
香川	同上	二、一八	一九、八四〇	三、〇二二	一〇、八三
愛媛	同上	二、一八	二九、六七五	一、六五二	一〇、八三
高知	同上	二、一七	一九、八四〇	一、六五二	一〇、八三
福岡	同上	二、一七	二二、二五三	二、二二三	九、五一
大分	同上	二、一六	二二、五七二	一、二七八	五、九二
佐賀	同上	一、五八	一九、一二九	一、七六七	九、二二
熊本	同上	二、一六	三九、九四五	二、四七〇	六、一八
宮崎	同上	二、一六	三四、〇〇四	三、六一九	一〇、六四
鹿児島	同上	三、七〇	二四、一六二	二、三三三	九、六六
鹿島	同上	二、一八	一七、三五七	一、五三五	八、八四
沖繩	同上	二、一八	五一、六九一	一、四〇九	二、七二
合計					

本邦ニ於ケル今回ノ流行

四五

本邦ニ於ケル今回ノ流行

島	取	根	山	島	口	山	和	德	香	愛	高	福	大	佐	熊	宮	鹿	沖	合
島	取	根	山	島	口	山	和	德	香	愛	高	福	大	佐	熊	宮	鹿	沖	合
十一月下旬	十二月下旬	十一月下旬	十一月下旬	十一月下旬	十一月下旬	十一月下旬	十一月下旬	十一月下旬	十一月下旬	十一月下旬	十一月下旬	十一月下旬	十一月下旬	十一月下旬	十一月下旬	十一月下旬	十一月下旬	十一月下旬	十一月下旬
一、八二	一、六二	一、七一	二、〇六	三、一四	一、二八	三、三八	二、〇六	一、二九	〇、六八	二、四二	一、五七	一、七二	一、二七	一、一八	一、二九	三、二九	一、五九	二、二一	二、二一
九、五六六	一、八四九	二、四五五	四、二五〇	五、〇三五	二、四八七	二、四〇三	一、七四九	三、〇九〇	五、〇〇二	一、〇六六	一、七三七	一、六七〇	三、一六九	七、七九九	六、二二九	八、六〇七	二、四一〇	二、三三七	二、三三七
八、八一	一、一五九	二、一九三	三、四三〇	三、四四〇	一、〇一七	二、五二二	一、四六〇	一、四六〇	四、八六	七、二〇七	一、四四四	一、一六二	一、六六三	七、六七	四、八一〇	九、二五	一、〇七四	二、七三九	二、七三九
八、八一	九、七八	八、八九	八、〇七	六、七九	四、〇八	一、〇四四	八、五一	四、七五	九、五七	六、七六	〇、八一	六、九五	五、〇一	九、八四	七、七二	一、〇七四	五、二九	五、二九	五、二九

### 第七章 神奈川縣ニ於ケル今回ノ流行

流行性感胃大流行ノ經過後、本縣ニ於ケル同症蔓延ノ跡ヲ願ルニ、大正七年五月初旬横須賀軍港ニ於テ軍艦周防「インフルエンザ」様疾發生シ患者百五十餘名ヲ出シ漸次諸艦艇ニ蔓延シ榛名若宮、金剛ノ各艦ニ續發ヲ見、陸上海兵團ニ波及シ總計三百餘名ヲ算セリトノ報アリ。而シテ横須賀市民ニ於テモ小數ノ散發ヲ見タル事アリシモ注意スベキ流行ノ状態ヲ呈スル事ナク終

熄シタル事アリ。又五月中旬ニ縣下程ヶ谷富士瓦斯紡績工場ニ於テ、多數ノ流行性感胃患者發生シ大ニ寄宿職工間ニ恐慌ヲ來シタル事アリ。之等ノ發生ヲ以テ同年秋期ニ於ケル「パンデミー」ノ先驅的流行ト見ルベキヤ否ハ明カナラザルモ、軍港ノ艦艇ハ當時大戦中ニシテ地中海方面トノ關係密接ナルモノアルヲ以テ、之ヨリ感染スル機會アルハ考慮ヲ要スル點ナリ。越テ八月ニ入り北米ノ流行猖獗ナルニ當リテ、九月二日横濱港ニ入港セル東洋汽船會社所屬安洋丸ノ航海中十六名ノ「インフルエンザ」患者ヲ出シテ歸航セルノ事實アリ、其ノ後横濱港ニ入港セル大平洋航路ニ從事スル船舶ハ航海中大低少數ト雖モ同症患者ノ發生轉歸セルヲ報ゼザルモノナキノ状態ナリキ。然レドモ當時横濱市内及縣下ニ該症ノ發生ヲ見ザリシト、船内乗組員及船客ノ長航海中ニ於ケル疾病者ノ續出トハ、常時存在スルヲ以テ、特ニ一般ノ注意ヲ惹クコトナク看過シ去リタルハ爭ヒ難キ所ナルベシ。

本縣ニ於ケル「パンデミー」ノ初發ト見ルベキモノヲ求ムルニ、大正七年十月九日、小田原中學校(足柄下郡小田原町ニ在リ)寄宿舎内ニ一時ニ九名ノ熱性感胃患者ノ發生アリトノ報アリ。其後四日ニシテ百有餘名ノ患者ヲ續發シタルニ流行ノ端ヲ發シ、續イテ同地ノ小學校、工場等ニ蔓延ヲ見タルヲ公文書ヲ以テ報告セラレタルモノ、初發トナス。然レ共其後ノ調査ニ依レバ別表ニ示スガ如ク十月初旬全縣下ニ亘リテ感冒患者ノ散在性ニ發生シツ、アリタルモノ、如シ。

是等ノ事實ニ立脚シテ本縣ノ流行系統ヲ按ズレバ、(一)縱令小田原ハ遊覽地タル箱根ノ要路ニ當リ各地ノ漫遊客往來頻繁ナルノ地ナレバ之等ノ旅客ヨリ蔓延スルモノト想像セララルベキモ、(二)靜岡縣郡部地方ニ於テハ九月ノ中旬以來同症ノ發生アリタルヲ以テ、之ニ境スル小田原ノ直

神奈川縣ニ於ケル今回ノ流行



チニ系統ヲ引クトモ考ヘ得ラルベキモ、(三)又五、六月ニ於ケル流行ノ再燃トモ思考シ得ラルベキモ、北米合衆國及ビ加奈太ノ西海岸ニ於ケル流行ト、入港船舶内ノ患者發生ノ状態トヲ参照考察スル時ハ本病流行ノ泉源ヲ船舶關係ニ求ムルノ至當ナルガ如シ。

然シテ十月下旬ヨリ十一月下旬ニ至ル一ヶ月間ハソノ流行最モ激甚ニシテ、十二月ヨリ一月中旬ニ亘リ一時小康状態ヲ示シ、一月下旬ヨリ病勢再燃シテ猖獗ヲ極メ三月末ニ至リテ遂ニ終熄ヲ見タリ。此ノ間報告ニ接シタル患者ノ數實ニ二十八萬七千五百九十九名ニシテ内死亡セルモノ五千二十一名、總人口百ニ對スル罹病率二一、七六%ニシテ人口ノ約二割二分ヲ胃シ、患者百ニ對スル死亡率一、七五%ヲ出セリ。十月初旬ヨリ大正八年三月三十一日ニ至ル統計ニヨル

大正八年末ヨリ大正九年春季ニ至ル所謂後流行ニ於テハ、罹患者數五萬六千九百九十二名トナリ大ニ減少セルモ、死亡者ハ著シク増強シ患者百ニ對シ四、二%ノ死亡率ヲ出現セリ。之レ後流行ニ於テハ肺炎ヲ併發或ハ續發セルモノ多數ナルニヨルモノトス。八年十二月ヨリ九年六月三十日ニ至ル統計ニヨル

大正七年ニ於ケル罹患者數

流行性感胃郡市別患者數

郡市別	患者數	死亡數	同上%	初發	終閉期	猛烈期
横濱市	一〇二、六三	一七、五九	一七、四	七年十月初旬	八年四月下旬	八月十日前
横須賀市	一三五、五六	一、八〇	一、三	同	同	同
久良岐郡	四八、一八	六八	〇、四	八年一月初旬(金澤村)	八年三月下旬(日下村)	同

郡市別	患者數	死亡數	同上%	初發	終閉期	猛烈期
橋本郡	二八、二五七	七三三	二、五九	七年九月下旬(川崎)	八年四月下旬(田島村)	同
都筑郡	四、一九三	二六八	六、三九	同年十月初旬(柿生村)	同	同
三浦郡	九、〇五二	二八五	三、一五	同年十月初旬(田浦)	八年四月中旬(田浦)	同
鎌倉郡	二三、三三六	一九五	〇、八四	同	同	同
高座郡	三〇、一四	五二四	一、七一	同	八年四月下旬(田名村)	同
中郡	二〇、九六四	四〇九	一、九五	七年九月下旬(大磯町)	八年四月中旬(城島村)	同
足柄上郡	九、六五五	二二四	一、二八	七年十月中旬(松田町)	八年三月下旬(川西村)	同
足柄下郡	一八、二九七	一三六	〇、七四	七年十月上旬(小田原町)	八年三月下旬(前羽村)	同
愛甲郡	六、九一七	一八四	二、六六	同	八年四月下旬(小站村)	同
津久井郡	一七、一七七	一六六	〇、九七	同	同	同
合計	二八七、五九九	五〇二	一、七五			

人口ニ對スル罹病率二一、七六%  
患者ニ對スル死亡率 一、七五%

大正八、九年ニ於ケル罹患者數

大正八年自十月上旬  
大正九年至六月三十日  
流行性感胃郡市別患者數

郡市別	流行ノ初期	患者數	死亡者數	患者ニ對スル死亡ノ%
横濱市	大正八年十月中旬	三三、〇六五	九〇八	二、八三
横須賀市	同 十月上旬	二二、五五	九二	四、〇五

神奈川県ニ於ケル今回ノ流行









神奈川縣ニ於ケル今回ノ流行

甲 愛								郡								
三田村	林川村	及川村	妻田村	宮ヶ瀬村	小針村	玉川村	南毛利村	厚木町	箱根町	元箱根村	芦ノ湯村	仙石原村	宮城野村	温泉村	湯本村	土肥村
一五	二五	三五	二六	三三	六六	九三	五六	八〇	一三	一〇	三	四	四	一〇	一〇	一五
九	七	〇	一四	三	六	三	六	四					五	八	五	九
七	三	五	五		一	四	六	五	一	元	一	四	三	一	七	一
二	七	八	九	二	一	五	三	四	一	二	一	三	三	九	四	五
一	一	一	一		一	三	四	三				〇	一	二	三	二
一	三	一	一		二	一	〇	一	三	一	八	四	六			
三					六	三	九	一	八							
二					三	二	二									
一〇	二五	三〇	三六	三三	六六	九三	五六	八〇	一三	一四	五	四	五	一〇	一〇	一五
								八、二五								
								三、六								
								十月上旬								
								三月下旬								

五九

下 柄 足																	
吉濱村	福浦村	真鶴村	岩浦村	片浦村	早川村	大窪村	足柄村	豊川村	下府中村	上府中村	田島村	下曾我村	下中村	前羽村	國府津村	酒匂村	小田原町
一六	一〇	二六	一〇	一五	一四	二五	一六	二六	一五	二五	一〇	三〇	一五	二六	二八	二五	七〇
一六	一五	一六	元	元	三	三	四	一	元	三	六	元	三	一	一	四	九
三	三	一	〇	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二	三	二	〇	一	一	一	二	一	元	三	一	一	一	一	一	一	一
三	七	三	六	五		九	二	五	八	七	三	一	三	三	六	二	一
〇六	二五	六三	九	三	三	八	八	八	〇	一	五	二	七	三	六	六	八、二五

神奈川縣ニ於ケル今回ノ流行

五八

神奈川縣ニ於ケル今回ノ流行

航路別	航路	船名	入港月日	患者數	死者數
内國航路	洲崎丸	十一月五日	四	一	
同	林成丸	十一月五日	七	一	
同	東峯丸	十一月六日	一	一	
同	麻耶山丸	十一月六日	三	一	

六一

自大正七年十一月至大正八年一月 入港船内流行性感冒患者調

郡	井										
	合	又野村	三澤村	太井村	川尻村	湖南村	中野村	三ヶ木村	串川村	鳥屋村	青根村
患者數	1,001	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
死者數	1,001	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
備考	十月旬 四月下旬 表中記載ナキハ發生ナキ 考備										

神奈川縣ニ於ケル今回ノ流行

久津	郡																	
	内郷村	牧野村	千木良村	小原町	與瀬町	日進村	名倉村	吉野町	小淵村	澤井村	佐野川村	依知村	中津村	高峯村	愛川村	荻野村	下川入村	柳澤村
患者數	1,001	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
死者數	1,001	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
備考	十月旬 四月下旬 表中記載ナキハ發生ナキ 考備																	

六〇





備考 表中×印ハ航海中發生シタル患者ニシテ入港前轉歸シタル數ヲ示ス

### 第八章 流行性感胃ノ統計的ニ三ノ觀察

縣下各町村ニ亘リテノ流行狀況ハ之ヲ精確ニ知ル能ハザルノ要約多キヲ以テ横濱市ニ於ケル感冒統計ノ一、二ヲ記載シテ之ガ疫學的觀察ヲ示サントス。

一、横濱市ニ於ケル流行ノ推移

兵營監獄寄宿舍等ノ如キ集團生活者ニ於ケル流行性感胃ノ流行ニ就テハ容易ニ且ツ適確ニ其ノ流行機轉ヲ窺知シ得ベシト雖モ、大都市タル横濱市ノ如キハ殊ニ患者届出ノ規定ナキ現時ノ狀態ニ於テハ、本病流行ノ初期ヲ知ル事ハ特ニ至難ナルモノトス。本縣ハ十數年來、ベスト病豫防ノ目的ヲ以テ、横濱市内ニ於ケル死体檢案ノ必要上、市役所ニ届出ツル死亡診斷書ノ檢閱ヲ行ヒツツアリタル所ナレバ之ヲ流行性感胃死ノ調査ニ應用セリ。流行性感胃ニテ死亡スルモノハ殆ンド總テニ於テ之ニ續發或ハ併發セル肺炎ノタメニ斃レタルモノナルヲ以テ、連日ノ死亡者殊ニ肺炎死亡者數ノ消長ヲ以テ、感冒流行ノ推移ヲ判斷セントスルコトハ無謀ノ企テニ非ルベシト信ジ、此ノ目的ノ爲メニ左表ヲ調製セリ。

(但シ死体檢案日誌ニ據ルヲ以テ縣市ノ統計書ト一致セザルモノアルベシ)

十月中ニ於ケル死亡届出數

日	死亡者届出數		同上肺炎死亡數
	大正六年	大正七年	
一	二〇	九	一
二	一七	一四	一
三	二二	二二	一
四	二二	二二	一
五	二二	二二	一
六	二二	二二	一
七	二二	二二	一
八	二二	二二	一
九	二二	二二	一
十	二二	二二	一
十一	二二	二二	一
十二	二二	二二	一
十三	二二	二二	一
十四	二二	二二	一
十五	二二	二二	一
十六	二二	二二	一
十七	二二	二二	一
十八	二二	二二	一
十九	二二	二二	一
二十	二二	二二	一
二十一	二二	二二	一
二十二	二二	二二	一
二十三	二二	二二	一
二十四	二二	二二	一
二十五	二二	二二	一
二十六	二二	二二	一
二十七	二二	二二	一
二十八	二二	二二	一
二十九	二二	二二	一
三十	二二	二二	一
三十一	二二	二二	一
合計	二〇	九	一

流行性感胃ノ統計的ニ三ノ觀察

流行性感冒ノ統計的ニ、三ノ觀察

日	死亡者届出數				同上肺炎死亡數			
	大正六年	大正七年	大正八年	大正九年	大正六年	大正七年	大正八年	大正九年
四	二八	三一	三〇	二〇	一	二	三	四
三	二三	三七	一六	一〇	二	三	四	五
二	二四	三〇	二一	二〇	三	四	五	五
一	二三	二七	一六	二〇	四	五	五	五
計	二八	三一	三〇	二〇	一	二	三	四

六七

十二月ニ於ケル死亡届出數

日	死亡者届出數				同上肺炎死亡數			
	大正六年	大正七年	大正八年	大正九年	大正六年	大正七年	大正八年	大正九年
三	六四	三一	一八	一五	二	三	四	五
二	三〇	二六	一八	一五	三	四	五	五
一	二六	一七	二六	一五	四	五	五	五
計	二六	一七	二六	一五	三	四	五	五

日	死亡者届出數				同上肺炎死亡數			
	大正六年	大正七年	大正八年	大正九年	大正六年	大正七年	大正八年	大正九年
十	一四	三三	三七	三八	一	二	三	四
九	二五	〇五	三八	三二	二	三	四	五
八	二〇	三一	五二	五二	三	四	五	五
七	一〇	一六	三六	四二	四	五	五	五
六	一九	一八	四二	五二	五	五	五	五
五	一八	一八	五二	三九	六	七	八	九
四	一八	二二	三九	四三	七	八	九	九
三	二二	二七	二七	二九	八	九	九	九
二	一八	二五	二八	二八	九	九	九	九
一	二五	〇五	二一	二一	一〇	一〇	一〇	一〇
計	二五	〇五	二一	二一	一〇	一〇	一〇	一〇

十一月中ニ於ケル死亡届出數

日	死亡者届出數				同上肺炎死亡數			
	大正六年	大正七年	大正八年	大正九年	大正六年	大正七年	大正八年	大正九年
三	五九	一六	三七	三八	一	二	三	四
二	一六	一七	三三	三三	二	三	四	五
一	一九	二二	三一	三一	三	四	五	五
計	一九	二二	三一	三一	三	四	五	五

流行性感冒ノ統計的ニ、三ノ觀察

六六

流行性感冒ノ統計的ニ三ノ觀察

月	日	一月中ニ於ケル死亡届出數		
		大正七年	大正八年	大正九年
二	二	三	四	五
三	二	三	四	五
四	一	二	三	四
五	一	二	三	四
六	一	二	三	四
七	一	二	三	四
八	一	二	三	四
九	一	二	三	四
十	一	二	三	四
十一	一	二	三	四
十二	一	二	三	四
十三	一	二	三	四
十四	一	二	三	四
十五	一	二	三	四
十六	一	二	三	四
十七	一	二	三	四
十八	一	二	三	四
十九	一	二	三	四
二十	一	二	三	四
二十一	一	二	三	四
二十二	一	二	三	四
二十三	一	二	三	四
二十四	一	二	三	四
二十五	一	二	三	四
二十六	一	二	三	四
二十七	一	二	三	四
二十八	一	二	三	四
二十九	一	二	三	四
三十	一	二	三	四
三十一	一	二	三	四
同上月肺炎死亡數		六	七	八
大正七年		六	七	八
大正八年		六	七	八
大正九年		六	七	八

六九

一月中ニ於ケル死亡届出數

月	日	一月中ニ於ケル死亡届出數		
		大正七年	大正八年	大正九年
三	三	三	四	五
四	三	三	四	五
五	三	三	四	五
六	三	三	四	五
七	三	三	四	五
八	三	三	四	五
九	三	三	四	五
十	三	三	四	五
十一	三	三	四	五
十二	三	三	四	五
十三	三	三	四	五
十四	三	三	四	五
十五	三	三	四	五
十六	三	三	四	五
十七	三	三	四	五
十八	三	三	四	五
十九	三	三	四	五
二十	三	三	四	五
二十一	三	三	四	五
二十二	三	三	四	五
二十三	三	三	四	五
二十四	三	三	四	五
二十五	三	三	四	五
二十六	三	三	四	五
二十七	三	三	四	五
二十八	三	三	四	五
二十九	三	三	四	五
三十	三	三	四	五
三十一	三	三	四	五
同上月肺炎死亡數		一	二	三
大正七年		一	二	三
大正八年		一	二	三
大正九年		一	二	三

流行性感冒ノ統計的ニ三ノ觀察

六八

流行性感胃ノ統計の二三ノ觀察

月	日	死亡者届出數					同上肺炎死亡數				
		大正七年	大正八年	大正九年	大正七年	大正八年	大正九年				
一	日	一七	二一	二九	一一	一	一	一	一	一	一
二	日	一七	二一	二八	一一	一	一	一	一	一	一
三	日	一三	二〇	三三	一一	一	一	一	一	一	一
四	日	二二	三〇	四四	三	一	一	一	一	一	一
五	日	一七	三一	三〇	三	一	一	一	一	一	一
計		一七	三一	三〇	三	一	一	一	一	一	一

七一

三月中ニ於ケル死亡届出數

日	死亡者届出數	同上肺炎死亡數
一	二五	二
二	二九	三
三	三一	二
四	三二	二
五	三三	二
六	三三	二
七	三三	二
八	三三	二
九	三三	二
十	三三	二
十一	三三	二
十二	三三	二
十三	三三	二
十四	三三	二
十五	三三	二
十六	三三	二
十七	三三	二
十八	三三	二
十九	三三	二
二十	三三	二
計	六六八	四六六

二月中ニ於ケル死亡届出數

日	死亡者届出數	同上肺炎死亡數
一	一九	一
二	三七	一
三	二八	一
四	三六	一
五	二五	一
六	二六	一
七	二二	一
八	一九	一
九	一六	一
十	一六	一
十一	一五	一
十二	一九	一
十三	二五	一
十四	二五	一
十五	二五	一
十六	二五	一
十七	二五	一
十八	二五	一
十九	二五	一
二十	二五	一
計	三二一	一九一

流行性感胃ノ統計の二三ノ觀察

日	死亡者届出數	同上肺炎死亡數
一	二九	一
二	四一	一
三	五二	一
四	一八	一
五	三三	一
六	二四	一
七	二二	一
八	二二	一
九	二二	一
十	二二	一
十一	二二	一
十二	二二	一
十三	二二	一
十四	二二	一
十五	二二	一
十六	二二	一
十七	二二	一
十八	二二	一
十九	二二	一
二十	二二	一
計	九二六	三四四

七〇